

# E V用ワイヤレス給電技術の最新動向と今後の方向性

日時  
2018年 8月22日 (木)  
10:30 ~ 16:30

受講料

1名 45,000円+税  
2名以上1名 42,000円+税  
案内図



飯田橋駅下車 各徒歩約5分  
JR中央線(緩行線)  
地下鉄東西線(A5出口)  
地下鉄有楽町線・南北線(A4・B2a出口)  
都営地下鉄大江戸線(A4出口)

<お申込要項>

- ・参加ご希望の方は、HP・E-mail・FAX 電話、何れかにてお申込ください。
- ・お申込に際し、社名・部署名・受講者名 住所・連絡先(TEL・FAX・E-mail)をお知らせください。
- ・お申込次第、受講票・請求書等を発送します。受講料のお支払は銀行振込・当日持参のいずれかをお願いします。
- ・受講料は講座後のお支払いも対応致します。(個人申込除く)
- ・開催日前14日以降のキャンセルは受けできません。
- ・受講者数が開催基準定員に満たない場合は中止になります。

会場 産業科学システムズ会議室(東京都千代田区富士見1-5-1)

講座概要ワイヤレス給電の各種方式の原理、その得失を述べ、EV用として使える方式について詳しく説明します。現在一番多く使われている磁界結合式の特徴についてデモ機を使って説明します。そのうえでEV用および実用の域に入っている電気バス用のワイヤレス充電の動向についてビデオを交えて解説します。ワイヤレス給電の課題として安全性、標準化および設置と運用において考えねばならない点を解説し、運用に必要な大電力化への対策としてコネクタ式の動向とワイヤレス給電での課題および日本でも今年から設置が始まるパンタグラフ式の電気バスについてもビデオを交えて紹介します。今後の方向性として走行中給電の内外の動向およびワイヤレス給電の市場規模について解説します。

講師 早稲田大学 電動車両研究所 招聘研究員 高橋俊輔氏  
(元)昭和飛行機(株) 技師長

- ・EV用ワイヤレス給電システムとは
  1. ワイヤレス給電の必要性
  2. ワイヤレス給電システムの種類
- ・EV用ワイヤレス給電システム
  1. 従来のワイヤレス充電システム
  2. 最新のEV用ワイヤレス充電の動向
  - ・日本と海外の差は何か?
- ・バス用ワイヤレス充電システム
  1. 日本でのワイヤレス充電電動バスの開発と運用試験
  2. 欧州/中国/米国でのワイヤレス充電電気バス運用事例
  - ・NEDOマレーシアプラジャプロジェクトも含めビデオを交えて解説
  3. 実運用に向けての課題
    - ・なにゆえ日本はこの分野で後進国となったのか?
- ・ワイヤレス給電における課題
  1. 安全性への課題
  - ・電磁波の課題
  - ・異物侵入への課題
  - ・誘導加熱への課題
  2. 標準化での課題
  - ・大電力用の分野も議論されつつある
  3. 道路上設置への課題
  4. 正着性への課題
- ・大電力充電システム
  1. EV用大電力充電システムの動向
  - ・CHAdemoと海外規格の解説
  2. ワイヤレス給電における大電力化への課題
  - ・漏洩電磁波の課題
  - ・使用デバイスはGaNになるか?
  3. 接触式超急速大電力充電システムの動向
  - ・欧州/中国/米国などでの運用事例
  - ・日本で取組中の事例
- ・今後の方向性と市場
  1. 走行中給電
  - ・走行中給電の各種方式
  - ・日本と海外の動向とその差異
  - ・標準化も走行中給電を視野に
  - ・意外と早い導入時期と導入シーン
  2. ワイヤレス給電システムの市場動向
  - ・シンクタンクによる最新のEV市場動向
  - ・まとめ・質疑応答

お申込・お問合せは

主催 ISS 産業科学システムズ  
<http://www.ebrain-j.jp/>

TEL (03)3264-5635 FAX (03)3264-5675  
E-mail: education@ebrain-j.com

申込書 FAXは 03-3264-5675

講座参加申込書 「EV用ワイヤレス給電技術の最新動向と今後の方向性」

セミナーコード

1101-180905

太枠内をご記入の上FAX (03-3264-5675) してください。

2018/9/5 ISS

社名	所在地	〒	電話	( )
No.	所属部課 (正式名称)	氏名	E-mail アドレス	-
				( )
			FAX	-
窓口部署			お支払予定	当日ご持参 銀行振り込み
この講座をお知りになった媒体を○で囲んでください パンフ はがき Eメール ホームページ 検索サイト( ) その他				